

厚生労働科学研究費補助金 (がん対策推進総合研究事業)
(分担研究報告書)

科学的根拠に基づくがん情報の迅速な作成と提供のための体制整備のあり方に関する研究

研究分担者 田村 和夫 福岡大学 研究推進部 (研究特任教授)

研究要旨

日本がんサポーターブケア学会は支持医療に関する16の部会と5つのワーキンググループ (WG) が活動しており、それぞれの領域における客観的な情報を集積・解析し、現時点で適正と考えられる診療ガイドを作成し公表している。2020年度は高齢者がん医療 Q&A臓器別編、漢方活用ガイドを発刊・公表した。国立がん研究センターがん対策情報センター情報提供部が作成した支持医療に関するコンテンツの査読を関連したJASCC部会で実施している。2020年度は依頼が無かった。

A. 研究目的

支持医療領域における適正な情報を発信していくことを研究目的としている。

B. 研究方法

日本がんサポーターブケア学会 (JASCC) は支持医療に関する16の部会と5つのワーキンググループ (WG) が活動している。エビデンスの少ない領域ではあるが、各部会、WGは、それぞれの領域における客観的な情報を集積・解析し、現時点で適正と考える診療ガイドを作成し公表している。また、JASCCと国立がん研究センター・医療情報センターは、申し合わせを交わし、医療情報提供部が作成したコンテンツの査読を関連したJASCC部会で実施してきている。

(倫理面への配慮)

COIのマネジメントは、JASCC、COI委員会で実施した。

C. 研究結果

・医療情報提供部が作成したコンテンツ
2020年度は、COVID-19の影響か査読依頼が1件も無かった。

・JASCCのメンバーから成る「高齢者がん診療指針策定に必要な基盤整備に関する研究」班と23のがん関連学会の協力を得て高齢者がん医療に関する議論を進め、高齢者がん医療Q & A臓器別編を発刊し、「プレフレイル高齢大腸がん患者のための臨床的提言」を公表した。
また漢方部会は、実践的な漢方活用ガイドを作成し公表した。

D. 考察

支持医療の多くの領域で十分なエビデンスが蓄積されていないため、ガイドライン作成ができていない。これまで蓄積された情報を集積・解析し、現時点でどこまで分かって、どこまで分かっていないかを整理して公表することが重要である。結果として重要な臨床的課題が抽出され、対応した臨床試験が計画・実施されることにより、質の高いエビデンスの創出につながり、適正な情報発信と診療指針の策定に結び付くものと考えられる。

JASCCのミッションに照らし、支持医療領域における適正な情報を速やかに発信するために、継続して国立がん研究センター・医療情報センターと協力して活動していく。さらに、冊子体の診療ガイド、手引書、患者向け資料公表にとどまらず、SNSを活用してタイムリーに情報を発信していくことを検討していく。

E. 結論

支持医療領域におけるガイド・手引書の作成と公表をしている。さらに継続してがん情報コンテンツの改善のために国立がん研究センター・医療情報センターと協働していく。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

3. 書籍

- 1). 高齢者がん医療Q&A臓器別編、日本がんサポ
ーティブケア学会編集、金原出版、2020年
- 2). がんサポーターティブケアのための漢方活用ガイド、
日本がんサポーターティブケア学会監修、南山堂、2
020年

H.知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし